

2016年3月期決算説明会 主なQ&A

- Q 今年度の北陸新幹線の運輸収入の見通しについて、どのように考えているのか。
- A 2年目を迎える北陸新幹線について、九州新幹線相互直通運転開始時には、山陽新幹線の運輸収入の増収額は2年目には1年目と比べて約1割の減となった。しかし、北陸新幹線については、そこまで落ち込ませず、需要を獲っていきたいと考えている。4月のご利用状況も対前年93%で、運輸収入の見通しに近い数字になっている。また、サンダーバードの4月のご利用も好調に推移しており、これらの関西からの需要を北陸エリア全体につなげるとともに、首都圏を含めた潜在需要の掘り起こしに取り組んでいきたい。
- Q インターネット予約の利用促進やシニア世代に対する需要喚起の取り組みの効果はどうか。
- A J-WEST ネット会員数は、昨年度末で254万人と、対前年47万人増となっている。また、シニア層向け専用商品の昨年度のご利用人数は222万人と、対前年22万人増となっており、運輸収入への影響は+5億円となった。  
したがって、インターネット予約のご利用促進やシニア世代の需要喚起の取り組みが順調に進捗していると考えている。
- Q 上振れを見込む営業キャッシュフローのうち、成長投資に充当予定の約600億円について、昨年度の業績を踏まえて、さらに積み増す考えはないのか。また、これまでの成長案件への投資の進捗状況はどうか。
- A 中計アップデートの際に、上振れを見込む営業キャッシュフロー約1,000億円のうち、設備投資に400億円を充当し、残るキャッシュフロー600億円についても、今後見出していく成長案件に投資していく方針であると申し上げた。  
このうち、設備投資に追加した400億円の施策については、着実に実施しつつある。中計最終年度にできるかぎり効果を出すため、早く実施できるものは早く投資をするという方針で進めてきている。  
成長案件に充当予定の残りの600億円については、フリーキャッシュフローがさらに上振れるということをも十分認識したうえで、成長案件の掘り起こしをしなければいけないと考えている。進捗状況については、ブラジル都市旅客鉄道事業への出資が一番大きく、その他は数億円程度であり、全体としては100億円から200億円の間となっているのが現状である。引き続き、交渉をしていかなければならない案件がいくつかある。
- Q 九州において行われているフリーゲージトレインの走行試験で発生した不具合により、御社のフリーゲージトレインの開発計画にどのような影響が出るのか。
- A 当社が開発しているフリーゲージトレインは、九州新幹線長崎ルートでのフリーゲージトレインの技術を前提としているため、長崎ルートでの開発が遅れば、当社の開発も遅れることになる。